



2022年9月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年10月31日

上場会社名 ホウライ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9679 URL <https://www.horai-kk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺本 敏之
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務企画部長 (氏名) 三野 眞 TEL 03-6810-8117
 定時株主総会開催予定日 2022年12月23日 配当支払開始予定日 2022年12月26日
 有価証券報告書提出予定日 2022年12月23日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期の業績 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期	4,937	1.9	443	114.4	682	90.5	470	120.0
2021年9月期	4,846	2.7	206	—	358	97.7	214	25.4

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	営業収益 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年9月期	337.32	—	5.6	3.6	9.0
2021年9月期	153.29	—	2.7	1.9	4.3

(参考) 持分法投資損益 2022年9月期 ー百万円 2021年9月期 ー百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しております。詳細は添付資料13ページ「(5)財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期	18,877	8,596	45.5	6,157.42
2021年9月期	19,021	8,122	42.7	5,817.70

(参考) 自己資本 2022年9月期 8,596百万円 2021年9月期 8,122百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年9月期	620	△429	△477	2,700
2021年9月期	886	△246	△752	2,986

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年9月期	—	0.00	—	50.00	50.00	69	32.6	0.9
2022年9月期	—	0.00	—	55.00	55.00	76	16.3	0.9
2023年9月期(予想)	—	0.00	—	55.00	55.00		18.3	

(注) 2022年9月期における1株当たり期末配当金については、50円から55円に変更しております。詳細については、本日(2022年10月31日)公表いたしました「剰余金の配当に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,200	5.3	500	12.7	630	△7.7	420	△10.8	300.83

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料13ページ「(5) 財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期	1,404,000株	2021年9月期	1,404,000株
② 期末自己株式数	2022年9月期	7,859株	2021年9月期	7,744株
③ 期中平均株式数	2022年9月期	1,396,182株	2021年9月期	1,396,274株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の背景等につきましては、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 財務諸表及び主な注記	6
(1) 貸借対照表	6
(2) 損益計算書	9
(3) 株主資本等変動計算書	10
(4) キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(持分法損益等)	13
(セグメント情報等)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和され、経済社会活動が正常化に向かう一方で、変異株ウイルスによる感染再拡大、ウクライナ情勢の緊迫化、原材料価格の高騰、金融資本市場における円安進行等の景気下振れリスクが拡大し、不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社は各事業がそれぞれの特性に応じた施策の推進に努めました。

当事業年度の経営成績は、営業収益につきましては、保険事業は前年同期を上回り、千本松牧場は「収益認識に関する会計基準」(以下、収益認識会計基準)適用の影響もありましたが前期を上回り、不動産事業、ゴルフ事業は前期を下回りました。全体での営業収益は4,937百万円(前期比90百万円増、うち収益認識会計基準適用の影響により325百万円減)と前期比増収となりました。

営業総利益につきましては、保険事業、不動産事業、千本松牧場は前期を上回りましたが、ゴルフ事業は前期を下回り、全体では1,108百万円(前期比282百万円増、うち収益認識会計基準適用の影響により17百万円減)と前期比増益となりました。一般管理費は664百万円(前期比45百万円増)と前期を上回り、営業利益は443百万円(前期比236百万円増、うち収益認識会計基準適用の影響により17百万円減)と前期比増益となりました。営業外収益にゴルフ会員権消却益219百万円(前期比72百万円増)を計上したことを主因に、経常利益は682百万円(前期比324百万円増、うち収益認識会計基準適用の影響により17百万円減)、当期純利益は470百万円(前期比256百万円増、うち収益認識会計基準適用の影響により12百万円減)となりました。

なお、上述のとおり、当事業年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。詳細については、「3. 財務諸表及び主な注記(5) 財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

①保険事業

お客様とのリレーションを深め、様々なリスクマネジメントのご要望に応じた保険商品をご提案する等、お客様に寄り添ったコンサルティングを推進しました。営業収益は、生命保険分野で新たなご契約を数多くいただいたことに加え、損害保険分野で多くのお客様に既存契約の更改をしていただいたことを主因に両分野とも増加し、全体で1,188百万円(前期比66百万円増)となりました。営業原価は生産性向上の取り組みに伴う費用増加を主因に前期を上回り、営業総利益は433百万円(前期比43百万円増)となりました。

②不動産事業

所有不動産の入居率はほぼ満室状態で安定的に推移しましたが、収益認識会計基準適用の影響等により、営業収益は1,206百万円(前期比4百万円減)となりました。営業原価は経費の見直し等により前期を下回り、営業総利益は727百万円(前期比123百万円増)となりました。

③千本松牧場

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続きましたが、下半期には、社会全体でウィズコロナへの移行が進む中、観光施設へのご来場者数も徐々に回復しました。新しい牧場コンセプト「PURE MILK FARM」の下、地産品コーナーの更なる充実、レストランメニューの拡充、動物と触れ合えるスペースの増設、レストランでの行列解消の為の順番待ち機の導入、景観の向上等、「密」を回避しながらご来場者様により安心してお楽しみいただける牧場づくりに努めたことで、観光施設は前期比増収となりました。外販営業は地元量販店、ギフト商社向けが伸長し、前期比増収となりました。7月から8月にかけては、アイスクリームの在庫不足による欠品が発生し皆様にご迷惑をお掛けしましたが、対策を講じ正常化いたしました。酪農は搾乳量、搾乳牛頭数とも増加いたしました。収益認識会計基準適用の影響で前期比減収となりました。

この結果、営業収益は全体で1,763百万円(前期比51百万円増)となりました。営業原価は収益認識会計基準適用の影響を主因に前期を下回り、営業総損失は18百万円(前期比147百万円改善)となりました。

④ゴルフ事業

ゴルフ場の基盤であるコースコンディションの維持・向上に引き続き取り組み、ご来場者様から高いご評価をいただいたことに加え、プレー前日宿泊プランのご提供、レディースデーの増設、メール・LINE等を活用した積極的な情報・プレープランのご案内等、より多くの方にご来場いただけるよう努めました。また、クラブハウス売店の商品見直しや酒類を中心とした品揃えの充実、お得な割引セットの販売、レストランにおけるメニューや食味の改善等に取り組み、ご来場者様の満足度向上にも努めました。6月には、昨年5月に続き西那須野カントリー倶楽部で男子プロトーナメントを開催し、わが国有数のゴルフ場としての認知度は更に向上いたしました。

この結果、ハイシーズンは前年を上回る方にご来場いただきましたが、12月～2月の降雪によるクローズの影響を回復するには至らず、通期のご来場者数は前期を下回り、営業収益は779百万円(前期比23百万円減)となりました。営業原価は、ご来場者数減に伴う変動費の減少に加えて経費の抑制に努めましたが、施設修繕費が増大したことから前期を上回り、営業総損失は34百万円(前期比31百万円悪化)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当事業年度末の流動資産は3,930百万円となり、前期比205百万円減少しました。これは主に現金及び預金が減少したことによるものです。固定資産は14,947百万円となり、前期比61百万円増加しました。これは主に投資有価証券の増加によるものです。

この結果、総資産は、18,877百万円となり、前期比143百万円減少しました。

(負債)

当事業年度末の流動負債は1,255百万円となり、前期比38百万円減少しました。これは主に未払金及び未払費用の減少によるものです。固定負債は9,025百万円となり、前期比578百万円減少しました。これは主にゴルフ会員権買取等による長期預り保証金が減少したことによるものです。

この結果、負債合計は、10,280百万円となり、前期比617百万円減少しました。

(純資産)

当事業年度末の純資産合計は8,596百万円となり、前期比473百万円増加しました。これは主に当期純利益の計上によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物は、前期比286百万円減少し、2,700百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税引前当期純利益675百万円を主因に620百万円の収入（前期は886百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出△446百万円を主因に429百万円の支出（前期は246百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

ゴルフ会員権買取等△271百万円、長期借入金の返済による支出△100百万円、配当金の支払い△69百万円等を主因に477百万円の支出（前期は752百万円の支出）となりました。

キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
自己資本比率	41.2%	42.7%	45.5%
時価ベースの自己資本比率	22.0%	22.8%	22.1%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	－年	3.5年	4.8年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	－倍	28.4倍	20.6倍

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注) キャッシュ・フローは、キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いは、キャッシュ・フロー計算書の利息支払額を使用しております。

なお、2020年9月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオについては、営業キャッシュ・フローがマイナスであるため記載しておりません。

(4) 今後の見通し

当社は、3ヶ年中期経営計画(2021年9月期～2023年9月期)を推進しております。当社を取り巻く事業環境の大きな変化に対して、「お客様を起点とした改革の実行」「ビジネスチャンスへの変換」「SDGsを意識したサステナビリティ経営」への取り組み等により、経営基盤の強化と持続的成長を実現することによる「企業価値の向上」を目指しております。

当事業年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けたものの、その程度はそれ以前よりも減少傾向で推移しました。一方、ロシアのウクライナ侵攻や急激な円安進行等による原材料価格の上昇、ガソリン価格や電気・ガスといったエネルギー価格の高騰等、新たな懸念材料が発生し厳しい環境となりました。当社では、お客様目線を第一に、「安心・安全」かつ「快適」なサービス・商品等の提供の深化に努めるとともに、千本松牧場・ゴルフ事業の業績回復のための施策をはじめとした中期経営計画の主要施策を迅速かつ着実に推し進めた結果、営業利益は当初計画300百万円を大きく上回る443百万円(前期比236百万円増)となりました。

今後につきましては、新型コロナウイルスへの感染対策については経済活動の継続を前提とした対応がさらに定着していく一方、インフレ圧力の増加が世界的にも大きな影響を及ぼしていくことが想定されます。当社といたしましては、トップラインの増強は勿論、徹底したコストコントロールを推し進めることにより、収益力の向上を図ってまいります。

これらの施策により、次期の業績見通しにつきましては、営業収益5,200百万円(前期比262百万円増)、営業利益500百万円(前期比56百万円増)、経常利益630百万円(前期比52百万円減)、当期純利益420百万円(前期比50百万円減)を見込んでおります。

各セグメントで掲げる施策において、共通する概念は次のとおりであります。

事業部門・本社部門での主要施策における共通認識として、

- ① 様々な事業環境の変化を踏まえた態勢整備、ビジネスチャンスへの変換
- ② お客様目線の徹底に立ち返った収益構造改革の着実な実行(お客様との対話を通じた「安心・安全」かつ「快適で満足度の高い商品・サービスの提供」など)
- ③ 経費構造改革の聖域なき推進
- ④ 当社の最大の強みである「質の高いお客様基盤」の有効活用と更なる拡充
- ⑤ 未来に向けた持続的発展を目指したSDGsへの取り組み推進

により、経営基盤の強化と持続的成長を実現し、「企業価値の向上」を目指してまいります。

(保険事業)

「守りから攻めへの営業転換」により、今までとは異なる次元まで進化した代理店を目指します。具体的には業務品質の向上を追求し続けるとともに、お客様への最適なリスクソリューションの提案により、事業・生活に関するリスク管理パートナーとしての信頼と評価を獲得し、ファーストコール代理店の地位を強固にしております。そして、損害保険・生命保険の普及を通じて、「安心かつ安全で持続可能な社会の実現」と「国民生活と経済の安定と向上」への取り組みを推進し、以下を柱とするサステナブルな成長の実現を推進してまいります。

- ① お客様にとって最適なリスクソリューションをサポートする総合提案力の向上
- ② 高い業務品質を実現しお客様の期待にお応えするとともに、業務の効率化・迅速化の推進
- ③ お客様の信頼をベースとした取引拡大による持続的成長を実現し得る組織・体制の強化

(不動産事業)

最大の使命である「テナント様・入居者様への『安心・安全』かつ『快適』な空間の提供」によるサステナビリティの追求をミッションとし、適切な修繕・更新への投資の実施によるビルグレードの維持向上を図り、「安心・安全」かつ「快適」な空間の提供によるお客様満足度の向上と賃料収入確保の両立を目指すとともに、空調機器更新等の省エネ型設備への移行により、環境保全に配慮したサステナブルな賃貸不動産の運営を推進してまいります。

また、更新投資の進捗と収益力向上の状況を見極めるとともに、優良資産の取得並びに優良資産への入替による所有資産ポートフォリオ再構築の検討を継続的に実行することで収益力強化を進めてまいります。

(千本松牧場)

ご来場いただいたお客様に安心・安全な牧場を体験していただける新たな仕組みを作るとともに、多様化・高度化するお客様のニーズに柔軟に対応出来る態勢づくりに努めてまいります。一方で、徹底したコスト構造改革を継続し、経営資源の戦略的投入により収益体質を強化し、営業利益黒字化を目指します。

具体的には酪農事業の効率化、自社工場の生産性改善等を推進し、営業戦略としては販売商品、チャネル、ロジスティックス等の見直しを進め、観光施設（お土産・飲食・アトラクション等）においては、新コンセプト「PURE MILK FARM」に基づいて千本松牧場らしさを追求し、お客様に喜んでいただける飲食メニューのご提供、自社製造のチーズや焼き菓子をはじめとする地産品コーナー、プライベートブランド商品の充実等に取り組んでまいります。

SDGsへの取り組みについては、開祖である松方正義公の「自然との共生」の理念を引き継いで、本州では有数の環境負荷の少ない牧場経営を行っております。具体的には、400ヘクタールに及ぶ広大な森林を管理育成して酪農で発生するメタンガスの大半を吸収させ、更に乳牛の排泄物を堆肥に加工して自社の牧草耕地の肥料として利用し、そこで育てた牧草・コーンを乳牛に餌として与えるという「循環型酪農」を実践しております。今後も、より環境に配慮した「千本松牧場」を目指してまいります。

(ゴルフ事業)

「お客様によりお喜びいただけるサービス」と「効率的なゴルフ場運営」を両立し、お客様に、お支払いいただく料金以上に満足いただけるゴルフ場実現に引き続き邁進いたします。

具体的には、ご来場からお帰りまで「より楽しく」「快適」にプレーいただけるよう、「おもてなし」の一層の充実、コースコンディションの細やかな管理と一段の向上、魅力あるプレープランの提供などを進めるとともに、一段の効率運営に取り組み、課題である営業利益の黒字転換、収益体質の強化を図ってまいります。

また、ゴルフ事業を通じたSDGsへの取り組みとして、広大な原生林がコース内に有る魅力溢れる自然環境に配慮した設備導入・薬剤利用を推進し、より多くの方にゴルフ場での充実した時間をご提供することで、心身の健康増進のサポートに努めてまいります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、日本基準に基づき財務諸表を作成しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,638,441	3,300,082
受取手形	574	493
売掛金	262,712	349,582
商品及び製品	104,259	109,875
仕掛品	8,204	6,337
原材料及び貯蔵品	37,563	53,079
前払費用	72,589	75,900
その他	11,666	35,132
貸倒引当金	△103	△89
流動資産合計	4,135,909	3,930,395
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,759,446	11,833,942
減価償却累計額	△8,097,986	△8,167,609
建物(純額)	3,661,459	3,666,332
構築物	3,992,806	4,008,542
減価償却累計額	△3,652,718	△3,659,589
構築物(純額)	340,088	348,952
機械及び装置	1,408,901	1,418,162
減価償却累計額	△1,301,946	△1,294,869
機械及び装置(純額)	106,955	123,293
車両運搬具	158,342	146,728
減価償却累計額	△148,104	△138,161
車両運搬具(純額)	10,237	8,567
工具、器具及び備品	1,198,393	1,219,526
減価償却累計額	△842,114	△866,583
工具、器具及び備品(純額)	356,279	352,943
乳牛	247,174	248,023
減価償却累計額	△95,319	△93,898
乳牛(純額)	151,854	154,125
土地	8,266,772	8,266,772
コース勘定	729,640	729,640
立木	73,387	73,474
リース資産	248,267	248,267
減価償却累計額	△186,380	△196,592
リース資産(純額)	61,887	51,675
建設仮勘定	—	1,004
有形固定資産合計	13,758,562	13,776,781

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
無形固定資産		
ソフトウェア	5,575	5,830
その他	18,895	16,487
無形固定資産合計	24,470	22,317
投資その他の資産		
投資有価証券	866,878	971,666
出資金	3,522	3,522
長期前払費用	46,208	29,577
前払年金費用	32,040	59,930
繰延税金資産	132,027	52,309
その他	44,979	54,127
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	1,102,656	1,148,134
固定資産合計	14,885,689	14,947,233
資産合計	19,021,599	18,877,628
負債の部		
流動負債		
買掛金	76,349	114,231
リース債務	44,168	35,372
未払金	207,262	127,999
未払費用	276,178	232,868
未払法人税等	55,338	157,791
契約負債	—	154,035
前受金	114,615	—
保険会社勘定	151,757	99,477
預り金	13,654	14,969
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
賞与引当金	62,924	82,282
役員賞与引当金	8,938	10,469
ポイント引当金	1,983	—
事業構造改善引当金	22,860	—
その他	157,651	125,569
流動負債合計	1,293,682	1,255,066
固定負債		
長期借入金	2,800,000	2,700,000
リース債務	156,585	114,817
退職給付引当金	30,970	45,850
役員退職慰労引当金	74,500	90,660
長期預り保証金	6,445,030	5,975,826
資産除去債務	97,838	98,777
固定負債合計	9,604,924	9,025,930
負債合計	10,898,607	10,280,997

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,340,550	4,340,550
資本剰余金		
資本準備金	527,052	527,052
資本剰余金合計	527,052	527,052
利益剰余金		
利益準備金	97,857	104,838
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,041,902	3,436,073
利益剰余金合計	3,139,760	3,540,912
自己株式	△18,971	△19,325
株主資本合計	7,988,390	8,389,189
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	134,601	207,441
評価・換算差額等合計	134,601	207,441
純資産合計	8,122,991	8,596,631
負債純資産合計	19,021,599	18,877,628

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
営業収益	4,846,745	4,937,592
営業原価	4,020,693	3,829,283
営業総利益	826,051	1,108,308
一般管理費	619,059	664,592
営業利益	206,991	443,716
営業外収益		
受取利息	40	38
受取配当金	23,996	35,993
会員権消却益	147,058	219,168
雇用調整助成金	11,325	—
その他	25,177	26,983
営業外収益合計	207,598	282,184
営業外費用		
支払利息	31,530	30,517
乳牛除売却損	14,104	9,908
その他	10,592	2,825
営業外費用合計	56,228	43,251
経常利益	358,361	682,649
特別利益		
固定資産売却益	—	1,499
特別利益合計	—	1,499
特別損失		
固定資産除売却損	22,876	8,774
事業構造改善引当金繰入額	22,860	—
減損損失	38,047	—
特別損失合計	83,784	8,774
税引前当期純利益	274,577	675,374
法人税、住民税及び事業税	39,158	156,632
法人税等調整額	21,382	47,777
法人税等合計	60,540	204,409
当期純利益	214,036	470,965

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位: 千円)

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
				繰越利益剰余金			
当期首残高	4,340,550	527,052	90,876	2,904,663	2,995,539	△18,791	7,844,350
当期変動額							
利益準備金の積立			6,981	△6,981	—		—
剰余金の配当				△69,815	△69,815		△69,815
当期純利益				214,036	214,036		214,036
自己株式の取得						△180	△180
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	—	—	6,981	137,238	144,220	△180	144,040
当期末残高	4,340,550	527,052	97,857	3,041,902	3,139,760	△18,971	7,988,390

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	61,608	7,905,958
当期変動額		
利益準備金の積立		—
剰余金の配当		△69,815
当期純利益		214,036
自己株式の取得		△180
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	72,992	72,992
当期変動額合計	72,992	217,032
当期末残高	134,601	8,122,991

当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位: 千円)

	株主資本						自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金合計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	4,340,550	527,052	97,857	3,041,902	3,139,760	△18,971	7,988,390	
当期変動額								
利益準備金の積立			6,981	△6,981	—		—	
剰余金の配当				△69,812	△69,812		△69,812	
当期純利益				470,965	470,965		470,965	
自己株式の取得						△353	△353	
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)								
当期変動額合計	—	—	6,981	394,171	401,152	△353	400,799	
当期末残高	4,340,550	527,052	104,838	3,436,073	3,540,912	△19,325	8,389,189	

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	134,601	8,122,991
当期変動額		
利益準備金の積立		—
剰余金の配当		△69,812
当期純利益		470,965
自己株式の取得		△353
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	72,840	72,840
当期変動額合計	72,840	473,639
当期末残高	207,441	8,596,631

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	274,577	675,374
減価償却費	319,973	320,768
減損損失	38,047	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	34	△13
賞与引当金の増減額 (△は減少)	18,455	19,357
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,938	1,531
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	1,983	△1,983
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	22,860	△22,860
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△9,160	14,880
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6,230	16,160
受取利息及び受取配当金	△24,036	△36,032
会員権消却益	△147,058	△219,168
支払利息	31,530	30,517
固定資産除売却損益 (△は益)	22,876	7,274
売上債権の増減額 (△は増加)	52,770	△86,788
棚卸資産の増減額 (△は増加)	35,550	△19,265
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,063	37,882
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	7,524	757
未払費用の増減額 (△は減少)	96,582	△43,315
未収消費税等の増減額 (△は増加)	34,976	—
未払消費税等の増減額 (△は減少)	63,227	△11,109
その他	48,225	△12,720
小計	900,044	671,247
利息及び配当金の受取額	23,705	36,024
利息の支払額	△31,264	△30,073
法人税等の支払額	△11,417	△56,579
法人税等の還付額	5,749	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	886,816	620,619
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,000,000	△1,000,000
定期預金の払戻による収入	1,000,000	1,000,000
有形固定資産の取得による支出	△258,121	△446,567
有形固定資産の売却による収入	30,477	30,197
無形固定資産の取得による支出	△2,523	△3,816
投資有価証券の取得による支出	△1,499	—
その他	△15,285	△9,147
投資活動によるキャッシュ・フロー	△246,953	△429,334
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△100,000	△100,000
入会預り保証金の返還による支出	△534,441	△271,181
リース債務の返済による支出	△47,772	△36,276
配当金の支払額	△69,645	△69,551
その他	△180	△353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△752,040	△477,362
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△112,177	△286,077
現金及び現金同等物の期首残高	3,098,860	2,986,683
現金及び現金同等物の期末残高	2,986,683	2,700,605

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

・代理人取引

不動産事業及び千本松牧場の一部の取引において、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財またはサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先等に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

・有償支給取引

千本松牧場における有償支給取引については、従来は、支給品の譲渡に関してはその対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該取引が有償支給取引に該当する場合には、当該支給品の譲渡に関する収益は認識しない方法に変更しております。

・一定期間にわたり履行義務を充足する取引

ゴルフ事業の一部の取引については、従来は、一時点で収益を認識しておりましたが、履行義務の充足につれて一定期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書き並びに第86項に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当事業年度の営業収益は325,617千円減少し、営業原価は308,592千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ17,025千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」及び「前受金」は、当事業年度より「契約負債」に含めて表示することといたしました。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

a. セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別に4つの事業本部を置いて事業活動を展開しており、「保険事業」「不動産事業」「千本松牧場」「ゴルフ事業」の4つを報告セグメントとしております。

「保険事業」は保険代理店業務、「不動産事業」は賃貸ビルの運営、「千本松牧場」は乳製品の製造販売、レストラン経営や土産品販売、「ゴルフ事業」はゴルフ場の運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

「財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおり、収益認識会計基準等を当事業年度の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更してあります。

当該変更により、従来の方法に比べて、当事業年度の営業収益は、「不動産事業」で48,985千円、「千本松牧場」で256,732千円それぞれ減少しておりますが、両事業におけるセグメント利益又は損失に影響はありません。また、「ゴルフ事業」の営業収益は19,900千円減少しており、セグメント損失は17,025千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	保険事業	不動産 事業	千本松牧場	ゴルフ事業	計		
営業収益							
外部顧客への営業収益	1,121,303	1,210,832	1,711,783	802,826	4,846,745	—	4,846,745
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	5,871	—	5,871	△5,871	—
計	1,121,303	1,210,832	1,717,655	802,826	4,852,617	△5,871	4,846,745
セグメント利益又は損失 (△)	390,788	603,682	△165,541	△2,877	826,051	△619,059	206,991
セグメント資産	297,518	10,556,953	1,549,164	1,516,470	13,920,106	5,101,492	19,021,599
その他の項目							
減価償却費	8,949	143,029	120,984	9,037	282,000	37,972	319,973
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	4,646	255,443	153,354	15,478	428,922	2,333	431,255

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△619,059千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額5,101,492千円、その他の項目の減価償却費の調整額37,972千円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額2,333千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位: 千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	保険事業	不動産 事業	千本松牧場	ゴルフ事業	計		
営業収益							
顧客との契約から生じる収益	1,188,250	1,206,006	1,763,510	779,824	4,937,592	—	4,937,592
外部顧客への営業収益	1,188,250	1,206,006	1,763,510	779,824	4,937,592	—	4,937,592
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	—	5,775	—	5,775	△5,775	—
計	1,188,250	1,206,006	1,769,286	779,824	4,943,367	△5,775	4,937,592
セグメント利益又は損失(△)	433,834	727,150	△18,390	△34,285	1,108,308	△664,592	443,716
セグメント資産	330,531	10,559,649	1,592,096	1,550,405	14,032,683	4,844,945	18,877,628
その他の項目							
減価償却費	6,572	156,171	123,758	8,459	294,962	25,805	320,768
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	6,406	177,528	174,038	13,490	371,464	5,289	376,753

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△664,592千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額4,844,945千円、その他の項目の減価償却費の調整額25,805千円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額5,289千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

b. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位: 千円)

	保険事業	不動産事業	千本松牧場	ゴルフ事業	全社・消去	合計
減損損失	—	—	38,047	—	—	38,047

当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産額	5,817円70銭	6,157円42銭
1株当たり当期純利益	153円29銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	337円32銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
当期純利益 (千円)	214,036	470,965
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	214,036	470,965
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,396,274	1,396,182

(重要な後発事象)

該当事項はありません。